

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援支援センター セレン学園		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 9日		令和6年 12月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数) 2名
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 9日		令和6年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数) 1名
○訪問先施設評価実施期間	令和6年 12月 9日		令和6年 12月 27日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	2名	(回答数) 2名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っている。	可能な限り当日に家族等へ連絡を入れて支援内容等の共有を行うとともに、書面でも伝えている。	当日のうちに連絡し、家族等へ適切に支援内容等の共有を行う。
2	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っている。	質問があれば都度助言や支援を行ってきた。 質問内容によっては、職員間で相談し、助言した。	質問があれば都度助言や支援を行って行き、スタッフ間で情報共有をし、支援の幅を広げていく。質問に答えられない場合には他の職員と検討し、適切な支援を行う。
3	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている。	システムや電話で悩みを聞きその日に対応することを心がけています。その場で返せない質問などは適宜専門職や他の職員と相談し、返すようにしています。	引き続きその日のうちに対応することを心がけて、保護者様の悩みが多く感じた際には担当者会議を開き、困りごとを減らし、支援の質向上に努めて参ります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させる機会が少ない。	保育所等訪問支援に関するもの、助言内容、助言の仕方などの研修機会も少ない。	保育所等訪問支援を行っている他事業所との合同研修会、同支援に関する大学教授等を講師に迎えて研修会を行うことを検討する。
2	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	保育所等訪問支援に係る安全上の配慮事項等については安全計画に記載していない（事業所内と同様の安全計画に基づいて支援を実施するが、訪問先の人的・物的環境は考慮しなければならない）。	訪問支援前の事前準備・確認等を行っていく。また、研修や話し合いの場などを設け、他の地域の事業所での取り組み等やヒヤリハットを共有して安全管理の向上に努める。
3	保育所等訪問支援における、虐待を防止するための職員研修機会を単独で確保していない。	保育所等における訪問の場をイメージする限り、支援者が虐待を行うケースは皆無に近いものと推測されるが、防止に関する助言等を行う意味では研修機会が必要と考える。	保育所等訪問支援における虐待防止の留意事項等について、虐待防止のための教育研修に組み込む。 外部研修に積極的に参加する。研修で得たことをスタッフ間で情報共有する。